

# 研究論文の募集について

## 研究論文の募集について

### 資産評価政策学会学術委員会

資産評価政策学会学術委員会（以下「委員会」という。）では、研究論文を広く募集します。

「研究論文」とは、資産評価政策に関する学術論文で、資産評価政策学会学術委員会（以下「委員会」という。）による審査を経て、『資産評価政策学』に掲載されるものです。

#### 1. 資産評価政策学に係る研究論文について

資産評価政策学に関しては、従来からの学術研究分野における研究課題に加えて、広範かつ多岐に亘る関連研究分野の学際的領域や、学術研究と民間・行政実務との境界領域において、例えば次に示すような新たな研究課題が提起されています（あくまで例示であり、これだけに限られるわけではありません。）。

##### (1) 資産評価に係る理論・実務に係る研究

- ①資産評価に関する理論や実務技術の一層の精緻化
- ②地図情報データベースの普及、行政のOA化の進展等技術進歩を踏まえた評価技術のあり方
- ③公平かつ効率的な課税・徴収システムのあり方 (2)

##### 資産評価手法や税制が社会・経済現象に与える影響や、そのメカニズムに係る研究

- ①不動産市場における土地・住宅価格や都市の住宅問題に与える影響
- ②東京一局集中など国土構造を変化させる影響
- ③資産・担保価値の変動が金融市場やマクロ経済動向に与える影響

##### (3) 資産評価政策のあり方に係る研究

- ①所得・消費・資産に係る総合的な税制の文脈の下での資産課税の位置付け
- ②地方分権・地方行革・地方税財政改革推進の文脈の下での資産課税のあり方

##### ③環境評価のあり方

このように、資産評価政策に係る研究課題は、法学、経済学、金融論、財政学、経営学、会計学、行政学、政治学、建築学、土木工学、都市工学、社会工学、環境学などの学術研究分野に密接に関連するとともに、学術研究者のみならず、不動産に係る民間実務家、また公認会計士や税理士さらには金融機関に携わる実務家、及び固定資産税担当をはじめとする行政実務家にも密接に関連する問題です。

このような観点をも踏まえ、すべての会員から、多数の研究論文を募集しています。

#### 2. 受付・締め切りについて

また、委員会では研究論文を随時受けつけますが、効率的に審査を進めることにより採用された研究論文が速やかに『資産評価政策学』に掲載されるようにすることを目的として、年4回の論文投稿締切日を設けることとします。

研究論文が、無修正又は早期に修正が完了すれば、最短の場合、論文投稿締切日以降約3ヶ月程度で、『資産評価政策学』に掲載できることとしています。

	研究論文投稿締切（必着）
1回目	3 / 3 1
2回目	6 / 3 0
3回目	9 / 3 0
4回目	1 2 / 3 1

#### [研究論文応募要項]

##### 1. 内容

資産評価政策学に関する最近の研究成果又は調査報告等で未発表のもの。

##### 2. 応募資格

資産評価政策学会（以下「学会」という。）会員。連名者も会員であること。

### 3. 原稿執筆及び投稿要領

(1) 応募者は、「研究論文執筆要領」に従い、論文を執筆すること。

#### 【研究論文執筆要領（抄）】

- ①本文は和文、英文のいずれかとする。
- ②原稿は、会誌 12 ページ以内(22080 字程度)

(2) 応募者は、下記の書類を学会事務局宛郵送すること。

- ①印刷原稿 1 部及びそのコピー 4 部（コピーは著者氏名及び著者所属を消したものとす。）
- ②研究論文審査申込書（別紙 1）
- ③返信用封筒 1 通（A 4 サイズのものに送り先を記入し切手 160 円分を貼ったもの）なお、上記書類を事務局あて郵送する際は、封筒に「研究論文原稿」と標記すること。

### 4. 研究論文の採否について

委員会が、複数の者による査読を経て、学術論文としての審査を行い、合格又は不合格のいずれかを判定する。

### 5. 発表

合格した研究論文は資産評価政策学会機関誌に掲載する。

### 6. 掲載料等

当分の間無料とする。

### 7. 著作権

- ①掲載された研究論文の著作権は執筆者に属する。
- ②学会は編集出版権を持つものとする。

### 8. その他

連絡先 資産評価政策学会事務局

Mail : japap00@gmail.com

#### [研究論文執筆要領]

1. 本文は和文・英文のいずれかとする。

2. 和文の場合の形式：

- (1) 原稿ページ数は、審査付部門・論文が会誌 12 ページ (22080 字程度) 以内とする。ただし、本文の字数は、全体から題目、著者名、英文概略等を記すための分 (約 920 字相当) を差し引いたものとなる。
- (2) 1 ページ目に以下を記述する。
  - ①論文題目 (和文及び英文)

②著者名 (和文及び英文)

③英文概略 (abstract) (200words 以内)

④キーワード (和文及び英文) (“Key words ; ”のタイトルを付け、上に英文下に和文を対応させ、カンマで区切って列挙する。3～5 語でかつ全体が 2 行以内に収まるように配置すること。)

⑤著者の所属 (和文及び英文)

- (3) 原稿は、①ワープロ原稿を A 4 用紙の所定文字位置に合うように貼り込むか、又は、②所定の書式と一致するように書式設定した上、A 4 用紙に出力したワープロ原稿を用いるかのいずれかとする。提出原稿は、そのまま版下として用いる。図表等も、そのまま版下となるものを割付位置に貼り付けること。レイアウトは、図 1 を参照すること。

### 3. 英文の場合の形式：

- (1) 原稿ページ数は、12 ページ (3600words 程度) 以内程度とする。ただし、本文の字数は、全体から題目、著者名、概略等を記すための分 (約 300words 相当) を差し引いたものとなる。

(2) 1 ページ目に以下を記述する。

①論文題目 (英文)

②著者名 (英文)

③英文概略 (abstract) (200words 以内)

④著者の所属 (英文)

- (3) 原稿は、①ワープロ原稿を A 4 用紙の所定文字位置に合うように貼り込むか、又は、②所定の書式と一致するように書式設定した上、A 4 用紙に出力したワープロ原稿を用いるかのいずれかとする。提出原稿は、そのまま版下として用いる。図表等も、そのまま版下となるものを割付位置に貼り付けること。レイアウトは、和文の場合と同様に図 1 を参照すること。

### 4. 執筆要領

- (1) 原稿の書き方は、題目、著者名、英文概略、キーワード、本文、参考文献、補遺、註の順で書く。
- (2) 引用は、著者 (年) の形で行う。
- (3) 参考文献は参照した文献をアイウエオ順または A B C 順に並べる。ただし、どちらかに統一し、
  - ・著者名 (西暦年号)「論文名」『雑誌名』巻 (号)、最初ページ-最後ページ
  - ・ Author (Year) "Title" Journal, Vol(No.), First Page-Last Page.

・ 著者名（西暦年号）『書籍名』 出版社、出版地、・ Author  
 (Year) Book Title, Publisher, Place. のように書く。

(4) 番号のふりかたは、原則として

1. 章番号

1-1. 小章番号（必要な場合に付する）

(1) 節番号……大きな区切り

1) 小節番号……次に大きな区切り

① 細目番号……列挙して説明する時などのようにする。

(5) 表はタイトルを表の上につける。図はタイトルを図の下につける。

